

第3回 刈谷市子ども・子育て会議 議事録要旨

1. 日時

令和2年1月21日（火）午前10時～11時30分

2. 場所

市役所 大会議室C

3. 出席者

会長はじめ委員14名（欠席6名）

事務局13名

4. 議題

（1）パブリックコメント手続制度に基づく意見募集の結果について

事務局より説明（「第2期刈谷市子ども・子育て支援事業計画」パブリックコメントの結果について、資料）

（質疑なし）

（2）計画書の最終案について

事務局より説明（「第2期刈谷市子ども・子育て支援事業計画」、資料）

・会長 第2回の会議以降において、指摘事項を追加修正している。

一部分を紹介する。

35ページの「計画の基本的な考え方」の中の、1「子どもの視点」において、「子どもの権利と幸せが第一」としている。

2「多様化したニーズに対応する視点」の冒頭に、「子育て家庭の生活実態や」を追加している。また、「サービス」という言葉がいくつか出ていたが、この言葉に違和感を持つ方も多いので、カットした。

4「すべての子どもと家庭への支援の視点」では、「一人ひとりの子どもの育ちを等しく保障する」という文言を追加した。

5「地域社会全体による支援の視点」では、冒頭部分「子育ての基本は家庭にあります…」を「子どもは、家庭や子ども同士だけでなく…」と修正した。

6「ワーク・ライフ・バランスの実現の視点」では、「仕事と子育ての

両立を可能にする」を追加した。

7「切れ目のない支援の視点」は、今回の目玉の観点である。冒頭部分の「親になる人達が多様なライフスタイル…」等文言をいくつか修正した。

その他、利用者目線で、子どもの権利を大事にする観点で追加修正している。

(質 疑)

- ・ 委 員 イラストについて、親子が向き合った観点の絵が見当たらない。何気ない生活の中の親子との関わりを大事にするという意図を組み込んでいただきたい。
- ・ 事務局 イラストについては、まだ暫定的なものであり、意見を参考として差し替えることを検討する。
- ・ 会 長 男女共同参画の観点から、刈谷市のガイドラインがあるが、男性だからといって大きく描いたりしない、女性だからと言ってピンク系統の色づかいを多用しないといった点に留意し、可能な限り対応いただきたい。
- ・ 委 員 47ページ「男女が協力して行う子育ての推進」に関連し、男性の育児参加や企業の働き方改革が叫ばれている中で、企業と市とでお互いに協力した取組みにチャレンジしてほしい。
- ・ 事務局 計画の段階では方向性を示しているものである。事業を進めていく中で、意見を参考にさせていただき、個別具体的に検討していく。
- ・ 会 長 男女共同参画の課題でもあるので、市民協働課と連携していく必要がある。
- ・ 委 員 会長が、「子どもの権利」ということを主張されていたが、「権利と義

務」がセットであり、「子どもの義務」とは何かと問われたときに、どのように回答すべきか。

- ・ 会 長 「子どもの権利」は子どもの権利条約の中で明示されており、天に与えられた人権であるといえる。子どもの権利は人権の歴史の中では遅れてきた権利である。

義務は、周りの大人・社会に発生するものである。

時代の変化もあるので、中間見直しも考慮しつつ、計画書の最終案としてまずはこれでスタートするというだけでよいか。

(異議なし)

それではお認めいただいたということで、次に進みたい。

概要版の最終案について事務局より説明（「第2期刈谷市子ども・子育て支援事業計画 概要版」、資料）

(質 疑)

- ・ 委 員 概要版について、違和感がありアンバランスに感じる。概要版だけを見ると内容はわかるのだが、本冊と比較すると、大項目と小項目が一致していなかったりする点が気になる。現計画のものが見やすい。
- ・ 事務局 本冊の構成と対応するよう、できる範囲で修正する。
- ・ 会 長 イラストは検討中ということであるが、先ほど意見のあった、家族で向きあった観点、男女共同参画の観点、社会の中でみんなで子育てをしていくというイメージでお願いしたい。
- ・ 委 員 現計画と見比べると、カラーと白黒の違いもあるが、見づらさ印象がある。太字を入れるなどメリハリをつけると印象が変わるのではないか。

- ・ 委 員 本冊から概要版に展開するとき、本冊の言葉が概要版の中で変わっていると思われるので、本冊を主軸にして、概要版を展開したほうが良いのではないかと。
- ・ 会 長 概要版について、いただいた意見を踏まえて、最終的な取りまとめを行う。

5. その他

事務局より今後のスケジュールについて説明

- ・ 会 長 この計画は新しい5年間で立ち上がっていくこととなる。計画を具体的に推進していくことを視野に入れ、刈谷市の子育てについて意見交換としたい。
- ・ 委 員 子育ての関わりについて、男女の認識の差があり、父親の中でも積極的に関わっている人とそうでない人と差があるように思う。褒められることで頑張れると思うので、そういうきっかけづくりにつながる企画があるとよい。おはなし会などの講習会について、若い男性の参加率はどうか。
- ・ 会 長 ここ数年で変わってきており、土曜の支援センターに限っては男性の方が結構多い印象である。
- ・ 委 員 私の会社では、2020年男性育児休暇100パーセントの取得率を目指している。男性社員への育児制度紹介・理解促進や一人ひとりの働き方に対応できる休暇制度の充実などを進めている。男性が育児参加していないと、一人っ子が多かったり、第2子第3子が生まれにくかったりというデータもあり、少子化対策としても大きな効果が期待できるものである。

- ・ 委 員 子育て支援団体として、保育園への育児講座を5～6年ほど続けているが、だんだんとお父さんの参加率が高くなっている。普通に接しているところを見ると、普段から育児しているということが分かる。
- ・ 委 員 30年前と比較すると、保育園の行事に両親で参加する人が多く、多くの父が積極的に参加している。園の見学も両親で来たりとか、父親が熱心に質問したりしているのを見かける。
- ・ 委 員 幼稚園も同じである。
- ・ 委 員 家庭では、父親が育児に参加している。
- ・ 委 員 3年ほど前、祖父母向けの「孫の講義」を受講したことがあるが、講師役の人の体験談ばかりだったので、どういう風に接したらよいかという話があるとよい。初めての孫であると、手遊びや絵本の読み方について重点的に教えてほしい。
- ・ 事務局 意見を踏まえて、講義の内容の見直しを検討し、人気を高めていきたい。
- ・ 会 長 いよいよ新しい計画がスタートしていくが、皆さんの任期は令和3年6月末である。みんなで子育てに関わる社会をどう作るかは難しい課題だが、それぞれの立ち位置で意見を出し合っていきましょう。

(閉 会)